

GEKKAN GIJUTSUKAIGI

# 月刊 技術会議

[www.s.affrc.go.jp/](http://www.s.affrc.go.jp/)

農林水産省 農林水産技術会議

2005年

12月号

No. 55



「実りのフェスティバル」政府特別展示をご視察される秋篠宮ご夫妻（コラム欄参照）

巻頭言 森林総合研究所の創立百周年に当たって

(独) 森林総合研究所 理事長 大熊幹章 < P 2 >

研究開発をめぐる  
最近の動き

公開講演会「バイオの若手研究者を育てたシーズ培養研究

とその成果」を開催 < P 3 >

平成 17 年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰

< P 4 >

森林総合研究所創立百周年記念式典

< P 5 >

成果発表会「IT がきり拓く新しい農業」を開催

< P 5 >

第3回日仏セミナー「食品の安全性と新規食品」を開催

< P 6 >

## 森林総合研究所の創立百周年に当たって

(独) 森林総合研究所 理事長 大熊幹章



(独) 森林総合研究所は、本年、平成 17 年をもって創立百周年を迎えました。すなわち、森林総合研究所は 1905 年、明治 38 年 11 月 1 日に当時の農商務省山林局の目黒試験苗園が林業試験所として官制上の公布をみた日をもって創立の日としており、その日から数えて 100 年、1 世紀の歴史が流れたこととなります。この間に、暖かいご支援とご指導を賜った農林水産省、農林水産技術会議、林野庁をはじめ関係各位に深甚なる感謝の意を表する次第です。皆様のお力により今日の森林総合研究所があるといっても過言ではありません。

さて、20 世紀の工業化文明を支えてきた化石資源の枯渇が進むとともに地球環境の劣化が加速的に進行し、人類生存に警鐘が鳴らされております。このような状況のもとで人類の文化的生活を未来にわたって維持、発展させて行くためには、豊かで多様な森林の恵みを生かした環境保全型の循環社会を創出することが必要であります。森林・林業・木材による循環型社会の形成こそ人類の持続可能な発展に資する重要課題であり、課題解決のための多くの研究開発遂行が必要であります。

我が国最大の森林・林業・木材産業に関わる研究開発を遂行する当研究所が、独立行政法人として国

民の要請に応えるという責務は大きなものがあります。第 1 次中期計画の成果を総括し、次期中期計画につなげるというこのとき、研究所 100 年の歴史を踏まえ、未来への飛翔を祈念しつつ森林総合研究所の責務に結びつけて次のようなミッションを策定いたしました。

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に関わる研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、人類の持続的発展に寄与します。

去る 11 月 1 日に虎ノ門パストラル（東京）において創立百年を記念する式典を挙行いたしました。式典の中で森林総合研究所の存立の意義、果たすべき使命としてこのミッションを社会に公表いたしました。今後、このミッションを旗印に職員一同、国民の皆様の生活向上に貢献する独立行政法人として業務に専念することを宣言いたします。

創立百周年を迎え、皆様方に感謝の念を捧げるとともに、今後とも変わらぬご指導、ご支援をお願いする次第です。



「実りのフェスティバル」(第 44 回)が、農林水産祭の一環として今年も 11 月 4 日(金)～5 日(土)、東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催されました。この催しは、農林水産省、都道府県、農林水産団体等が共同で実施しているもので、郷土特産物の展示即売や日曜大工コーナー、馬の展示、乗馬体験コーナーなど楽しいイベントです。また、政府特別展示コーナーには、農林水産祭顕彰普及において天皇杯を受賞された農業生産者らのパネルの展示や農林水産省各局庁からの展示品も出展されています。開催初日には毎回、秋篠宮ご夫妻がご視察されていますが、今年もご視察されたところです。

今年の政府特別展示テーマは「豊かな食でつくる元気な心と身体」。技術会議からは、試験研究独法の協力を得て、研究成果に係るパネル、サンプル等を出展しました。(独)農研機構東北農業研究センターからはイチゴ品種「なつあかり」の鉢植えや大豆品種、巨大胚水稻品種等のパネル・現物を、作物研究所からは高リグナン含量ごま品種のパネル・現物を、果樹研究所からは温州ミカンの加工品等が出展されました。また、(独)食品総合研究所からは、「十割そば」製造関連装置が出展され、そば作りの実演も行われました。「十割そば」の展示については、初日に秋篠宮ご夫妻もご視察され、興味深くご覧になられていたのが大変印象的でした。

なお、2 日間の入場者は、約 4 万 6 千人で、昨年の約 3 万 8 千人よりも約 2 割多くなっています。



政府特別展示ブース

## 研究開発をめぐる最近の動き

### 公開講演会「バイオの若手研究者を育てたシーズ培養研究とその成果－動物・植物・酵素分野のトップランナーが語る－」を開催

農林水産省委託事業「バイオテクノロジー先端技術シーズ培養研究」（昭和59年度～平成16年度）の研究成果をもとに、11月18日、公開講演会が東京大学山上会館で開催されました。講演会では、動物、植物、酵素の各分野から2課題ずつ、研究実施者であった大学の先生方からご講演いただきました。

その一部を紹介しますと、動物分野の武田教授（東京大学）からは、発生学の実験動物として欧米で通常用いられているゼブラフィッシュではなく日本のメダカに着目し、有用な突然変異体が得られたことが契機となり、現在メダカゲノムプロジェクトに進展していることをお話いただきました。植物分野の上田教授（東北大学）からは、マメ科植物の就眠運動が低分子の有機化学物質にコントロールされていることと、その就眠運動の阻害を行うことによる新たな除草剤の開発への期待について、酵素分野の正木教授（東京大学）からは、タンパク質へのD

ーアミノ酸の取り込みという従来の常識を越えた方法論を用いて酵素やタンパク質を創製する試みについてお話しいただきました。講演いただいた内容は、画期的な研究シーズを培養し、それを発展させるという本事業ならではの研究成果であり、異分野との融合により新たな研究領域の開拓につながった事例など、若い方々に是非聞いていただきたい興味深い内容が盛りだくさんでありました。

さらに、本事業に立ち上げから終了まで携わっていただいた慶應義塾大学名誉教授の渡邊格先生からは、21年間にわたって実施された本事業の成果と意義について、総括のご講演をいただきました。若手研究者の自由な発想を支えた本事業が内外で活躍する多くの研究者を生み出してきたこと、異分野の研究者の参画により新しい生物学の芽が育ったこと等のお話がありました。

参加者には、農学、生物学のほか工学、薬学等異分野の大学生、大学院生、専門学校生や、大学の講師や助手等の若手研究者の方々の姿もあり、参加者からは「研究の視野が広がった」「異分野の講演が興味深かった」等の意見をいただき、有意義な講演会となりました。

（研究開発課） ■



慶應義塾大学名誉教授 渡邊格先生の講演



農学、生物学の大学生、大学院生のほか、工学、薬学等異分野からも参加



## 平成 17 年度（第 6 回）民間部門農林水産研究開発功績者表彰

平成 17 年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰表彰式が 11 月 25 日に法曹会館で行われました。

この表彰制度は、民間部門で農林水産分野の研究開発に関係している方々の一層の意欲向上を目的に、農林水産省と（社）農林水産技術情報協会が共催して、農林水産大臣等による表彰を平成 12 年度より実施し、本年度が 6 回目になります。本年 3 月には新たな食料・農業・農村基本計画が制定されました。それに伴い、「攻め」の姿勢で農林水産業や関連産業を展開していくためには、この分野での研究開発に総力で取り組んでゆくことがきわめて重要であり、公的機関のみならず、民間部門において一層の研究開発を進めることが枢要となっています。

本年は、表彰候補の募集を 4 月 1 日～7 月 1 日に行い、38 件の応募がありました。藤巻宏東京農業大学教授を委員長として、選考委員会を 10 月 7 日、10 月 19 日の 2 回開催しました。その結果を受けて、

表の通り、農林水産大臣賞 3 件、農林水産技術会議会長賞 3 件、農林水産技術情報協会理事長賞他の賞 3 件、計 9 件が決定しました。

11 月 25 日に行われた表彰式では、農林水産大臣賞と農林水産技術会議会長賞が山田修路農林水産技術会議事務局長から授与されました（写真）。また、（社）農林水産技術情報協会理事長賞が亀若誠同協会理事長、（独）農業・生物系特定産業技術研究機構理事長賞が海野洋同機構副理事長、（社）農林水産先端技術産業振興センター会長賞が渡邊格同センター会長から授与されました。

（研究開発企画官室）



山田局長（右）より表彰状授与

### 平成 17 年度（第 6 回）民間部門農林水産研究開発功績者表彰受賞者

#### 【農林水産大臣賞受賞者】

- 製パン性に優れる春まき小麦「春よ恋」の育成・普及  
池口正二郎、小松 伸彦、村井 達夫、長谷川 明彦、庵 英俊、森生 元太郎、筒井 一郎、熊谷 利恵子、大山 耕二（ホクレン農業協同組合連合会）
- 全旋回型グラップル式プロセッサの開発・改良と普及  
イワフジ工業株式会社（代表 西村 勇夫）
- 低温環境下での全自動チキン処理加工システムの開発  
兒玉 龍二、井上 徳幸、構 敏和、木藤 浩仁、千村 剛司、米原 雄一郎、碓水 弘之（株式会社前川製作所）

#### 【農林水産技術会議会長賞受賞者】

- 鶏用多種混合オイルアジュバントワクチンの開発  
本田 隆、宮原 徳治、出口 和弘（財団法人 化学及血清療法研究所）
- イオンビーム新育種技術の開発とカーネーション新品種の育成・実用化  
岡村 正愛（キリンビール株式会社）
- 低アレルギー化食肉製品および食物アレルギー検証技術の研究開発  
日本ハム株式会社中央研究所アレルギー研究グループ（代表 森松 文毅）

#### 【社団法人 農林水産技術情報協会理事長賞受賞者】

- 野菜・花きの鮮度保持のための先進予冷技術の開発  
ナラサキ産業株式会社（代表 嶋崎 哲治）

#### 【独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構理事長賞受賞者】

- シイタケ菌床培養、栽培システムの開発研究  
カネボウアグリテック株式会社研究開発部（代表 山内 政明）

#### 【社団法人 農林水産先端技術産業振興センター会長賞受賞者】

- 天敵昆虫等生物的資材の利用による生物的防除システムの開発  
和田 哲夫（アリスライフサイエンス株式会社）

## 森林総合研究所創立百周年記念式典

独立行政法人森林総合研究所が創立百年を迎え、11月1日に記念式典が東京・虎ノ門パストラルで行われました。式典には、研究所職員・OBの他、関係機関からの招待者を含め、約250名が出席しました。まず、国際日本文化センターの安田喜憲教授により、「日本は森の環境国家として生き残る」と題する記念講演が行われました。引き続き式典が行われ、森林総合研究所のミッションステートメントが公表されました（巻頭言参照）。併せて、ミッションを果たすため、先導的研究機関を目指すという研究所のあるべき姿（ビジョン）、さらにミッションを実現するため、科学技術の発展、行政施策の推進、社会活動の活性化、国際協力の推進に寄与するという研究所の具体的な役割（タスク）が発表されました。今後とも森林総合研究所は、社会のニーズに応

える形で、地球温暖化防止対策と循環型社会の構築を重要課題と位置付け総力を上げて取り組むという意気込みが示されました。

（山中研究調査官） ■



百周年記念式典会場

## 研究成果発表会「ITがきり拓く新しい農業」を開催

「データベース・モデル協調システムの開発」（平成13～17年度）プロジェクトの研究成果発表会「ITがきり拓く新しい農業」が11月28日、秋葉原コンベンションホールで開催されました。

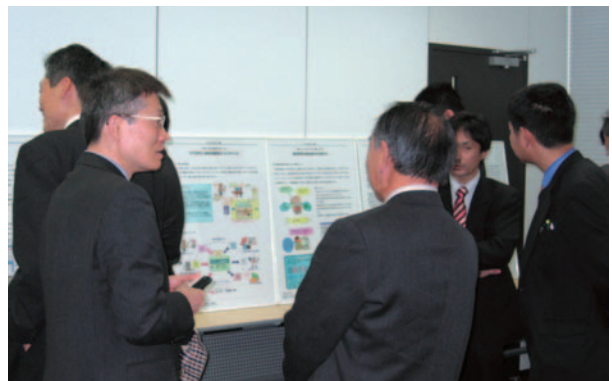
このプロジェクトでは、農学・工学・情報科学の研究者の力を結集して、実際の現場でも利用できる農業ITシステムの開発を目指して研究を推進し、最終年度に当たる今年度までに数多くの成果が得ら

れました。具体的には、ほ場の作物栽培情報等を自動的に収集するロボット（フィールドサーバ）や農業技術体系データベースによる営農計画支援システムなどがあげられます。

これらの成果を、実際の実需者に幅広く知っていただくために、それらの機器やシステムが現場で使用されている例や、本プロジェクトを通じた産学官連携の取り組みなどが発表され、また実際にプログラムを起動させての実演等も行われました。成果発表会には、生産農家、ITや農業関係の民間企業、



生産農家、民間企業、県、大学等から多数の参加



パネル展示において参加者からの質問に対応する課題担当者

県の普及員、大学の研究者等から 124 名の参加があり、この分野への関心の高さが伺えました。

(研究開発課) ■

## 第3回日仏セミナー「食品の安全性と新規食品」を開催

食品の安定的かつ十分な供給の中で食の安全・安心を確立することの重要性は、最近ますます高まっております。研究開発の貢献に対する期待が大きくなっています。

このような中で、農林水産技術会議事務局（以下、技会事務局）とフランス国立農学研究所（以下、INRA）との間で 2001 年 4 月に締結した実施取決めに基づき、技会事務局、独立行政法人食品総合研究所および INRA の共催により、第3回日仏セミナー「食品の安全性と新規食品」が 11 月 16 日～17 日の 2 日間にわたり国立京都国際会館で開催されました。

本セミナーでは、食品の安全性に係る日仏両国の専門家が一堂に会し、最新の研究状況の紹介と討論が行なわれました。まず、基調講演として、Corring 博士より INRA の組織、役割が紹介され、

続いて技会事務局の林首席研究開発官より、最近の農林水産省における研究動向が紹介されました。次に、クローン動物、組換え食品の検出、マイコトキシン、有害微生物および重金属汚染をテーマに、フランス側と日本側の各分野の専門家が交互に講演を行い、活発な討議が行われました。そして最後のセッションでは、今日までの本セミナーの活動を踏まえ、今後の研究協力の実施方法について日本の研究者交流支援制度および EU が今後導入予定の研究支援制度の活用等について意見交換しました。その一環でまず、食品の安全性に関する日本およびフランスの研究課題・研究者のリストを交換することとしました。

本セミナーを契機として今後の日仏両国の共同研究のさらなる発展が期待されます。

なお、本セミナーは 2003 年につくば市で第 1 回が、2004 年にパリで第 2 回が開催されています。

(国際研究課) ■



日仏セミナー会場



日仏セミナー参加者



## 平成17年度第7回農林水産技術会議の概要

- 日時 平成17年11月15日(火) 11:00～12:30
- 場所 愛知県名古屋市 ローズコートホテル
- 出席者  
 甕会長、佐々木委員、貝沼委員、西野委員  
 山田事務局長、林総務課長、東海農政局長、名古屋大学 松田教授、名古屋工業大学 岩尾教授、  
 愛知県農業総合試験場長、(株)後藤孵卵場 長谷部技術顧問、  
 (株)サイエンス・クリエイト 中野常務取締役、(独)野菜茶業研究所長、(独)養殖研究所長、  
 (独)家畜改良センター岡崎牧場長 ほか
- 議題  
 東海地域における産学官連携等の取組について
- 配布資料  
 東海地域における産学官連携等の取組について

### 議事要旨

東海農政局長、松田教授、岩尾教授、愛知県農業総合試験場長、長谷部技術顧問、中野常務取締役より、東海地域における産学官連携等の取組についての説明が行われ、それを踏まえた意見交換がなされた。

#### 【主な意見等】

- 研究を推進する上で、NPO法人等による地域におけるコーディネーターの役割が重要であり、しっかりと適任者を取り入れていくことが必要である。
- 技術開発の実用化研究の方向性として、大量

生産、大量消費のための技術開発も必要であるが、地域の実情にあった小規模な農家のための技術開発も不可欠である。現場のニーズを踏まえた研究推進に期待する。

- 公的機関は様々な研究に取り組んでいると認識しているが、実際に研究現場に訪ねて行って初めて知る研究も多い。産業側は研究の出口を共に目指すパートナーを求めており、成果等のPR等による更なる産学官連携の強化に期待する。
- 東海地域における産学官連携等の取組について、様々な角度から積極的に進められている現状を伺い、地域におけるエネルギーが感じられた。今後もより積極的な取組を期待する。



短葉性ネギ育種の視察（野菜茶業研究所）



ウナギ養殖実験の視察（養殖研究所）

## Information お知らせ

## 記者発表

| 発表年月日      | 発表事項名                                             | 担当課       |
|------------|---------------------------------------------------|-----------|
| 17. 11. 2  | クローン牛の異動報告のとりまとめについて                              | 技術安全課     |
| 17. 11. 7  | 地域におけるアグリビジネス創出産学官連携シンポジウムの開催について                 | 先端産業技術研究課 |
| 17. 11. 7  | 委託研究プロジェクト成果発表会「IT がきり拓く新しい農業」の開催について             | 研究開発課     |
| 17. 11. 7  | 公開講演会「シーズ培養研究とその成果－動物・植物・酵素分野のトップランナーが語る－」の開催について | 研究開発課     |
| 17. 11. 8  | 「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業成果発表会」の開催について                | 地域研究課     |
| 17. 11. 14 | 平成 18 年度 競争的研究資金制度の説明会について                        | 先端産業技術研究課 |
| 17. 11. 14 | 「生物多様性影響評価検討会総合検討会」の開催及び傍聴について                    | 技術安全課     |
| 17. 11. 18 | 第 4 回「第 1 種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」検討会の開催及び傍聴について       | 技術安全課     |
| 17. 11. 18 | 平成 17 年度 民間部門農林水産研究開発功績者表彰受賞者決定ならびに表彰式について        | 技術政策課     |
| 17. 11. 21 | 平成 17 年度 農林水産省農作物新品種命名登録 (第 2 回)                  | 地域研究課     |
| 17. 11. 28 | 家畜クローン研究の現状について                                   | 技術安全課     |
| 17. 11. 28 | クローン牛の異動報告のとりまとめについて                              | 技術安全課     |

## 今後の予定

| 年月日       | 行事名                   | 開催場所  | 担当課 |
|-----------|-----------------------|-------|-----|
| 18. 1. 17 | 平成 17 年度第 8 回農林水産技術会議 | 農林水産省 | 総務課 |

## 編集後記

この1年、ご愛読頂き有り難うございました。今年は、本小誌の改善に努めて参りました。昨年の1月より、2色刷りから全ページカラー化に転換し、本年7月には表紙のデザインを一新するとともに、誌名の下デザイン線の色も毎月変えています。お気づき頂けたでしょうか。さらに、10月より本文見出しもコンパクトにしてみました。編集子一同、読者の皆様にも少しでも親しみを持って頂けるよう来年も努力して参ります。ご意見等をお寄せ頂ければ幸いです。

月刊 技術会議 No.55 平成 17 年 12 月 15 日  
 編集・発行 農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課 技術情報室  
 〒 100-8950 東京都千代田区霞が関 1 - 2 - 1  
 TEL : 03-3501-9886 e-mail : koho@s.affrc.go.jp  
 農林水産技術会議事務局ホームページ <http://www.s.affrc.go.jp/>